

茅ヶ崎セントラルクリニック 前田 朋子 (看護助手 / 看護部)

功 績	透析ベッドのシーツ運用を取りやめた後、患者さんの状況を絶えず観察し、電気毛布を使用している患者さんの数をカウント、また寒いという訴えのある患者さんへのケアも忘れずに行い、かつ感染予防対策について自分ができることを進んで実行した功績。
推 薦 者	事務長 若林陽盛
推 薦 理 由	看護助手としての基礎的な業務内容の遂行に加え、理念に沿った行動、工夫は理事長賞に値すると考え推薦いたします。

内 容

今夏、当院ではこれまで大切にしてきた透析ベッドのシーツ運用を取りやめ、全てマットレスの状態に変更する決断をしました。患者さん一人ひとりにその旨しっかりと説明を行うと同時に、これから寒くなる季節を見越して、電気毛布の運用を推奨していきました。その取り組みを中心的に行っていたのが前田です。前田は入職して既に23年、看護助手として当院のさまざまな変遷を見てきました。家庭的で心の通った看護を実践できている一人です。助手として常に患者さんの状態を把握し、看護師や医師への報告を欠かさず行いつつ、患者さん一人ひとりと信頼関係を構築して、クレームになりそうな案件は事前に話をしっかりとすることで、トラブルに発展することなく推移することが多々あります。

シーツの運用を止め、12月の寒い時期になり、多くの患者さんが寒さを訴え始めるようになりました。その際、前田を中心に患者さんへ電気毛布を持参するよう声掛けを行い、またその電気毛布を保管するための棚の設置を進言してくれました。暫くして、電気毛布を使用している患者さんの数を確認し、寒いという訴えの無い患者さんでも、「電気毛布を持ってくると温かいですよ、持ってきたら棚があるからそこに保管すると手間が省けますよ」と優しく声掛けをしていきました。結果、大きなトラブルが起こることは有りませんでした。また当院の透析室はやや狭く、定期的な換気が感染予防には必要となっています。換気をすれば当然室内の気温は低下し、患者満足度に影響を与えることから、ロスナイ換気システムを自ら清掃し、窓を開けないうで換気ができるよう工夫をしてくれました。